

# 現代台湾南部における嬰兒の儀礼 - 剃胎毛（剃頭）を中心に -

西本 陽一

金沢大学人間科学系 〒920-1192 金沢市角間町

E-mail: [yoichi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:yoichi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)

## 要旨

呪術的思考や行為は、人間が危険や不確実性に直面した際に、顕現する傾向がある。ライフサイクルから見ると、生後間もない嬰兒は、その生がまだ安定せず、病気や種々の危険にさらされやすい存在であるため、様々な禁忌や呪術的行為が付随する。本稿はフィールドワークにもとづき、現代台湾南部で見られる嬰兒儀礼のうち、生後 24 日目におこなわれる「剃胎毛」（「剃頭」）儀礼を報告する。本事例の分析が明らかにするのは、台湾儀礼におけるシンボリズムの特徴と、嬰兒がまだ人間世界に十全に参入していない存在とみなされ、生後おこなわれるいくつかの儀礼とともに、だんだんと人間世界の成員となってゆくという事実である。

**キーワード：** 人類学、呪術、通過儀礼、台湾、嬰兒

## 1. はじめに

呪術的思考や行為は、人間が危険や不確実性に直面した際に、顕現する傾向がある（マリノフスキー 1977: 175-177、1997: 30-36）。ライフサイクルという点から見ると、生後間もない嬰兒は、その生がまだ安定せず、病気や種々の危険にさらされやすい存在で、そのため、様々な禁忌や呪術的行為が付随する。台湾漢族においては、生後 3 日目、24 日目、一ヶ月、四ヶ月、満一年におこなわれる儀礼が特に重要である（池田 1968）。本稿は、生後の間もない嬰兒のためにおこなわれる現代台湾南部の儀礼を報告するが、特に、24 日目におこなわれることの多い「剃胎毛」（台湾語；*thi3- the1-mng5*、北京語；*ti4 tai1 mao2*）（または「剃頭」[台湾語；*thi3-thau5*、北京語；*ti4 tou2*] と呼ばれる）儀礼および関連の禁忌や信仰を紹介する。

事例として取り上げるのは、2008 年 10 月初めに台湾南部の屏東県で誕生した男児のための生育儀礼および関連する禁忌や信仰である。事例の儀礼は、閩南語話者である「本省人」の家でおこなわれたが、その際に儀礼の準備と進行とを主に取り仕切ったのは、男児の母方の祖母 S（54 歳）であった。本稿は、当儀礼の参与観察、儀礼前後における S および嬰兒の母 W（33 歳）への聞き取りおよび先行文献の検討に基づいている<sup>1</sup>。以下で、この二人のインフォーマン

トに言及する場合には、それぞれ「祖母」「母親」と呼ぶ。

以下での本事例の分析が明らかにするのは、台湾儀礼における儀礼的なシンボリズムのもついくつかの特徴である。また、現代台湾において、嬰兒がまだ人間世界に十全に参入していない存在とみなされ、生後おこなわれるいくつかの儀礼とともに、だんだんと人間世界の成員となってゆくという事実が明らかになる。

## 2. 嬰兒の儀礼

### 2.1 生後3日目の儀礼

「祖母」によれば、嬰兒が男児であれば、生後三日目に「三界公」(台湾語; sam1-kai3-kong1)と祖先の「牌位」(位牌)の祀られた部屋「公媽廳」(台湾語; kong1-ma2-thia<sup>n</sup>1)へ行き、礼拝する(「拜拜」, 台湾語; pai3-pai3)。男児を得たというよい知らせを伝え、男児を見てかわいいと思うならば、どうぞやってきて触れたりしないでくださいと祈る。何故ならば祖先は異界に属するので、かわいいと思って触っても、嬰兒に悪い影響を及ぼしかねないからである。女兒の場合には3日目ではなく、30日目にこれをおこなう。本事例の嬰兒もその従兄(母の兄の息子、6歳)も病院での出産だったために、3日目ではなく、病院から帰宅した後にこれをおこなった。

「祖母」によると、嬰兒の生後3日目には、扉の後ろで便器の上方に嬰兒を抱えて、便をさせるという。そうすると、嬰兒が早く便の仕方を覚える。昔の家では、大小便する場所が決まっていた、扉の後ろに作られていたために、そこでこの儀式をするのだという。生後病院に留まっていた本事例の嬰兒についても、「祖母」が病室の扉の後ろでこれをおこなった。台湾の嬰兒は、後ろから両足の太腿部分を持って抱えられ、抱えている人は「シューシュー」と言いながら口笛を吹いて、小便を促す。大便を促すときには、低く「ンーン」と言う。

### 2.2 誕生24日目の儀礼

主に嬰兒の生後24日目に、嬰兒の「胎毛」(台湾語; the1-mng5、北京語; tai1 mao2)を剃る。「胎毛」とは嬰兒が誕生前に、母親の胎内にいた時に生えた産毛のことである。この儀礼については以下で詳述する。

### 2.3 誕生後1ヵ月(30日)以内におこなうこと

「祖母」によれば、生後1ヵ月(30日)以内に、嬰兒を太陽と雨に当てなければならないという。産後の一ヶ月間は産褥期にあり理論上は家内にとどまらなければならないものの、太陽

の方は嬰兒を外に連れ出して日光に当てさえすればよい。雨の方は、雨が降った時に嬰兒を外に連れ出して、顔に雨を少し当て、そしてまたすぐに家へ戻る。こうすれば嬰兒は後で喘息にならないという。

## 2.4 誕生一ヶ月(30日)目の儀礼

嬰兒の生後一ヶ月(30日目)に、親戚や友人を招いて祝宴をおこなうことを、「喝満月酒」(台湾語; chiah8 moa2-geh3-chiu2、北京語; he1 man3 yue4 jiu3、「満月酒を飲む」と称する。この「満月」とは、「月が満ちた」という意味である。「満月」はまた、産婦が30日間の産後の忌み養生(台湾語; cho3 geh8-lai7「做月内」、北京語; zuo4 yue4 zi「做月子」)が終わる時である<sup>2</sup>。最近ではホテルの部屋を借りて祝宴を催すことも多いが、地方では路地にテントを立てテーブルを用意して、屋外で祝宴を催すところも少なくない。招かれた客たちは、「紅包」(台湾語; ang5-pau 1、北京語; hong2 bao1)をもって来る。赤っぽい色の封筒(「紅包袋」)に入れられた、新生児のための祝儀金である。

この儀式のみに関わるのではないが、嬰兒にあげる「紅包」は、嬰兒の服の中の、心臓の近くにそっと挿み込む。嬰兒に「紅包」を渡すことには、「給寶寶容易長大、保平安」(赤ちゃんが難なく大きく育つように、無事でありますように)という意味が込められている。

「喝満月酒」の祝宴の料理には、「油飯」(台湾語; iu5-png7、北京語; you2 fan4)「紅蛋」(台湾語; ang5-nng7、北京語; hong2 dan4、)「麻油鷄酒」(台湾語; moa5-iu5-koe-chiu2、北京語; ma1 you1 ji1 jiu3)が含まれる。台湾南部では「油飯」は、蒸した餅米に、炒めた海老、豚肉、魚、椎茸、葱などの具を混ぜて、さらに蒸して作られる。「紅蛋」は殻を紅く染められたゆで卵であるが、最近では卵自体を染めることは減っており、代わりに赤っぽい包みで卵を包んで出される。「麻油鷄酒」にはそうめん(台湾語; mi7-soa<sup>n</sup>3、北京語; mian4 xian4「麵線」)が付く。「麻油」(胡麻油)には、中華風の胡麻油が用いられるが、台湾南部では「黒麻油」(黒胡麻油)が用いられる。スープには、「米酒」(台湾語; bi2-chiu2、北京語; mi3 jiu3)のみが用いられ、水を加えない。「麻油鷄酒」は、産婦の養生食である。

客たちには、「弥月之礼」(北京語; mi3 yue4 ji1 li3、「月が満ちた礼」として、食べ物の包みが渡される。祝宴に出席できない人々には、この食べ物の包みが贈られる。嬰兒が男子の場合には、油飯と紅蛋のセットを、女子の場合には、「蛋饅」(台湾語; koe1-mng7-ko1、北京語; dang3 gao1、ケーキ)と紅蛋のセットを贈る。「母親」によれば、紅蛋は嬰兒が生後初めて頭を剃ることの象徴だと言う<sup>3</sup>。現在はその差はなくなっているが過去には、男児の場合の祝いの品は女兒の場合のそれよりも、高い材料を使った贈り物で、ここには台湾伝統の「重男輕女」(男児が重んじられ女兒が軽んじられる)傾向が反映されているという。現在はこの習慣も商業化して、

「弥月之礼」の贈り物をカタログ化し、贈る側が品を選び、贈り先の住所を知らせると、店が代わって届けてくれることも多い。そしてカタログの品の中には、油飯とケーキをセットにした、男児の場合にも女児の場合にも通用する品も見られる。祝宴に出席できないが、「弥月之礼」を受け取った人々からは、郵便などで紅包が届けられる。

## 2.5 嬰兒の生後一ヶ月数日のうちにおこなうこと

嬰兒が生後一ヶ月（30日）になって数日のうちに、外に連れ出して、橋を渡る。そうすれば嬰兒は臆病にならないという。本事例の嬰兒の場合、「祖母」が外に散歩に連れていっている時に会った知人が、「もう橋を渡った」と聞いてきて初めてこの慣習を知り、そうしたという。

このように儀礼や慣習についての知識は、人々に同様に共有されている訳ではない。また人々自身は、時代とともにそれらの知識が失われ、儀礼や慣習も簡略化していると考えている。

## 2.6 誕生4ヶ月目の儀礼「収涎」

嬰兒の生後一年目には、母方の祖父母が娘の婿家を訪れ、孫である嬰兒に新しい衣服その他のものを贈る。婿家では真ん中に穴の開いたドーナツ型のクッキー（「穿孔餅」）を作り、糸を通してネックレスのようにする。この日も祖先を拝む（「拜拜」）。「拜拜」の後に嬰兒は、クッキーのネックレスを首に下げて外に連れ出される。友人や親戚たちは、ネックレスのクッキーを取り、それで嬰兒の涎を拭く仕草をし、詞を唱える。クッキーを取る人の中には、取った後の場所に「紅包」をつける人もいる。そうして嬰兒にお祝い金をあげるのである。

嬰兒の生後4ヶ月目のこの儀礼は、「収涎」（台湾語；siu1-noa7、北京語；shou1 xian2、「涎を拭く」と呼ばれる。そこでは、地方や人によって異なるが、おおよそ次のような詞が唱えられる。

収涎收滴滴、嬰仔好腰飼	涎を完全に拭けば、嬰兒はよく育つだろう
収涎收搭搭、趕緊叫阿爸	涎をきれいに拭けば、嬰兒は早く「パパ」と呼ぶだろう
収涎收滴滴、明年招小弟	涎を拭けば、嬰兒に来年は弟ができるだろう <sup>4</sup>

## 2.7 生後一年目の祝い

嬰兒の生後一年（360日）目は、誕生日でお祝いをする。これは台湾語で“cho3-to7-choe1”と呼ばれる。嬰兒の母親の実家の祖父母が、嬰兒に新しい服を贈る。その他に、亀と桃をかたど

ったお菓子（それぞれ「mi5-ku1 麵龜」と「siu7-tho5-a2 壽桃」と呼ばれる）をもってくる。実家の人々がもってくる「麵龜」と「壽桃」は、36 個など偶数でなければならない。漢族にとって偶数は吉兆である。亀も桃も長寿の象徴である。婚家と実家の人々は、これらをもって、婚家の神仏と祖先牌に参る（「拜拜」）。その後で一緒に食事する。

実家の人々は、帰るときに「麵龜」と「壽桃」をもって帰る。帰って、親戚にあげるためである。しかし、「麵龜」と「壽桃」は、もってきた数以上のものをもって帰らなければならないので、婚家のほうでも「麵龜」と「壽桃」を準備して、実家の人々にもって帰ってもらう。

嬰兒が一歳の時にこの祝いをやらなかったら、父方のおじ（父の兄弟）が結婚する時におこなう<sup>5</sup>。嬰兒に父方のおじがいなかったら、嬰兒自身が成長して、結婚する時に一緒におこなう（「祖母」より聞き取り）。

### 3. 「剃胎毛」儀礼

#### 3.1 現代の台湾南部における事例

事例の「剃胎毛」儀礼は、（誕生日を含めて数えて）生後 26 日目におこなわれた。本来、「祖母」と「母親」とは生後 24 日目におこなうことが普通であると考えたが、父親がまだ台湾に到着していなかったので、到着後の生後 26 日目に儀礼をおこなうことにしたのである。

「祖母」は儀礼の日の朝に、鶏卵と家鴨の卵を煮た。卵は後で一つずつ儀礼に用いられる他、訪問客や近隣の親戚たちに配られる。鶏卵と家鴨の卵を煮る際には、鍋に蓋をして煮てはいけないという。蓋を閉めることが、「竅」を閉じることにつながることを避けるためである。「竅」とは、眼耳鼻口の七つの穴の「穴」の意味であり、これが開いていることや開くことを「開竅」と言い、要領を得るという意味の表現として使われる。「竅」が開いていることは、頭脳が聡明なことの喩えである。

剃胎毛をおこなう日の朝、「祖母」は洗面器に水を入れ、鶏の卵ひとつ、家鴨の卵ひとつ、丸い形の石一個、小さな鉛の玉一個、十元硬貨ふたつ（ふたつでペアをなすと考えられている）を中に入れた（図 1）。洗面器の水は、鶏卵と家鴨の卵を煮た温かい汁である。嬰兒の胎毛を剃るために、「母親」の従姉の一人で、美容師をしている女性（40 歳）がやってきた。儀礼の場所は、玄関を入ったところにある居間だった。

「祖母」と剃り手は、角を真ん中にして、ソファに座った。「祖母」は、剃り手に嬰兒の頭を向けた形で、嬰兒を抱いていた。剃り手がテーブルにある洗面器の中から、ひとつずつ物を取り、それぞれを握りながら、嬰兒の横で次の言葉を唱えた。

koel-mng7 bin7, ah1-nng7 sin1, ho2 chhin3-chia5 lai5 siong7 tin7 雞蛋面、鴨蛋身、好親成來相陣  
thau5-khak4 teng7, gau5 toa7-han3, iu7 ian5 koh1 iu7 chia<sup>5</sup> chia<sup>5</sup> 頭殼硬、賢大漢、有緣攔<sup>6</sup>有錢錢  
鶏卵のように美しい顔、鴨卵のように強い身体、良い相手が来て夫婦となる  
頭は硬く、大きく育つ、人縁がありお金がある

剃り手はまず鶏の卵を右手に、家鴨の卵を左手に取り、「雞蛋面」と唱えながら、鶏の卵で嬰兒の左頬を軽く撫ぜた（図2）。

次に、「鴨蛋身」と唱えながら、家鴨の卵を嬰兒の胸に3度つけ、軽く擦った（図3）。

次に剃り手が丸い形の石（「石頭」「石」の意味）と呼ばれる）と鉛の玉を洗面器の水の中から取り出す時に、「好親成來相陣」と言うと、「祖母」も笑って繰り返した（図4）。

「石頭」を右手に、鉛の玉を左手に持った剃り手は、「頭殼硬、賢大漢」と唱えながら、嬰兒の頭をぐるっと石で撫ぜるような仕草をした（図5）。

さらに剃り手は「有緣攔有錢錢」と唱えながら、鉛の玉で嬰兒の顎を拭くような仕草をした（図6）。

最後に、剃り手は右手で十元玉ふたつ取り、嬰兒のあごの斜め下辺りを2回、次に胸を2回、再び顎の斜め下辺りを2回軽く触りながら、「有緣攔有錢錢」と唱えた（図6）。「錢錢」と「錢」（お金）が二度繰り返されるのは、赤ん坊言葉を使っているとのことである。

その後、剃り手は電気バリカンで、嬰兒の「胎毛」（髪の毛と眉毛）を剃りはじめた。前方の髪をまず剃り、嬰兒をうつ伏せ気味に直して、後方の髪を剃った。胎髪は、一部を残したりすることなく、全て剃ってしまった（図8）。剃り手は剃った髪を集め、紅い封筒（「紅包袋」）に入れた（図9）。嬰兒の胎毛を剃っているあいだは和やかで、世間話なども交わされていた。途中で剃り手の携帯電話が一度鳴り、剃り手は剃る手を休めて短くそれに応答した。嬰兒の従兄（母方の伯父の息子、6歳）は、後半には卵を食べていたが、子供でも大人でも儀礼後の卵を食べても構わないとのことだった（図10）。

胎毛を剃り終ると、「祖母」は剃り手に「紅包」（600元包まれていた）をあげた、親戚である剃り手も、お祝いとして「紅包」（1000元包まれていた）を嬰兒の衣服に挿み込んだ（図11）。

儀礼具が入った洗面器が出されて嬰兒の「胎毛」が剃り終わられるまで、およそ十分ほどの時間であった。

剃り手が帰った後で、「祖母」が嬰兒の「胎毛」が入った紅い封筒を、玄関から家の中に入った後で初めてに出会う戸（「過間門」）の上にある四角い枠（「開天」）の中の格子の奥に置いた（図13、14）。

### 3.2 儀礼の呼称

生後初めて嬰兒の髪（および眉毛）を剃る儀礼は、現在の台湾では「剃胎毛」（台湾語；thi3- the1-mng5、北京語；ti4 tai1 mao2）と呼ばれることが多いようである。しかし、頭を剃るという意味で単に「剃頭」（台湾語；thi3-thau5、北京語；ti4 tou2）とも呼ばれる。1980年代初めに台南の農村でフィールドワークをおこなった植野は、「剃頭」と呼んでいる（植野 2000: 249-251）。

文献においては、「剃胎毛」にあたる儀礼が、「満月」（台湾語；moa5-geh2、北京語；man3 yue4、一ヶ月が満ちたという意味）におこなわれるとの理解のうえで、「満月」の礼の中に含めるものも多い（片岡 1921: 7-8、片岡 1921: 7、鈴木 1934: 112-113、呉 1977: 114）。

「祖母」と「母親」は、儀礼の呼称としては「剃胎毛」でも「剃頭」でもよいと言った。「剃頭」は、一般的に頭髪を剃ることを意味し、当該儀礼を指すときに用いられる場合には、言外に「嬰兒の産毛を生後初めて」剃るという意味が加えられていると考えられる。

### 3.3 儀礼の期日

「祖母」によれば、「剃胎毛」は嬰兒が生れた日を含めて、生後 24 日目におこなうという。「祖母」がその母から聞いたのは、「剃胎毛」は嬰兒の生後 12 または 24 日目におこなうものだというのである。一方、この期日は厳密でなく 12、16、24、26 日目などでもよい。また儀礼の期日について、嬰兒の性別による違いはないとのことであった。「母親」によると、剃胎毛は嬰兒の誕生後 12 日か 16 日か 24 日目にやるが、24 日目にする人が最も多いという。この時期は、嬰兒に「慈悲心」（北京語；ci2 bei1 xin1、他人を哀れみ慈しむ気持ち）が出てくる頃だという。

漢族の文化ではペアが良いものとされるために、一般に偶数が好まれる。「剃胎毛」をおこなうべき期間内では、12、16、18、24 日目がよい数字とされる。3 の倍数はよく、24 は完全な数字だという。昼は 12 時間で、夜は 12 時間である。一年は 12 月。このように農曆ではすべて 12 か 24 日が単位となっている。また、18 については、数字 8 が、「発」と発音が類似しており、「発財」につながるために好まれるなどの理由が、「母親」から挙げられた<sup>7</sup>。

片岡（1921: 7）鈴木（1995 [1934]）呉（1977）は、「嬰兒の胎髪を剃り落とすこと」を、生後一ヶ月目におこなわれる行事「做満月」（あるいは「満月」）の一部と位置づけた上で、生後 24 日目におこなうこともあると記している。その理由については、「二十四孝に因んで」、嬰兒が将来純孝になりように祈ってするものだとしている（片岡 1921: 7、鈴木 1995 [1934]: 112、呉 1977: 114）。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区で調査をおこなった池田は、万華では嬰兒の胎髪を剃るのは生後 24 日目だが、他の地方では満一ヶ月目に剃る例が多く、24 日目におこなうことは少ないと報告している。また池田によれば、男女の別によって胎髪を剃る日が違うことはなかった（池田 1968: 836）。

植野が 1980 年代初めにフィールドワークをおこなった台南の農村では、嬰兒の生後 12 日目と一ヶ月目にそれぞれ「剃頭」（台湾語；thi3-thau5）と呼ばれる儀礼がある。生後 12 日目の「剃頭」では、実際に嬰兒の産毛を剃ることはなく、嬰兒の母親の出生家族より、産婦の産後の回復に役立つ食物が贈られる。実際に新生児の産毛を剃るのは、生後一ヶ月後の「做満月<sup>ツォモアツキ</sup> cho3-moa2-goeh8」の祝いの日である（植野 2000: 249-251）。

19 世紀の大陸中国の福州<sup>8</sup>についてドゥーリトゥル（Doolittle 1876: 122）は、「子供の頭を剃ること」が嬰兒の生後一ヶ月後の祝いの重要な行事だと記している。

中国大陸の例では、1942 年発行の『支那民俗誌』（永尾 1942: 446）は、「満月の日には、一般に生れた子に初めて頭髪を剃つてやる習慣がある」ものの、地方や家によって剃る日はまちまちだと報告している。

### 3.4 儀礼のおこなわれる時間帯

「母親」によれば、「剃胎毛」は、午前中でも午後でもよいが、明るい昼間におこなうべきという。これは、「光頭不接月光」（裸の頭を月光を受けてはならない）という言葉のように、頭髪を剃られた胎児の頭が夜に晒されるのを避けるためだそうである。また、電気もなかった昔には、儀礼でも仕事でも、夜には暗くてできなかったという理由付けもなされた。

本稿が参照した先行研究には、「剃胎毛」が一日のうちでどの時間帯におこなわれるべきか述べたものはなかった。

### 3.5 儀礼の場所

「祖母」によれば、「剃胎毛」をおこなう場所は、家の中であれば特にどの場所でおこなわなければならないという決まりはない。また、嬰兒の向くべき方向についても特に決まりはないということである。

本稿が参照した先行研究で、儀礼がおこなわれるべき場所について記したものは少ない。第二次世界大戦直後の台北市万華地区の場合、直接言及されているわけではないが、記述から、胎毛剃りが屋外でおこなわれていたことが分かる（池田 1968: 837）。

19 世紀の大陸中国の福州についてドゥーリトゥル（Doolittle 1876: 122-123）は、注意深い者



は、女兒の場合には嬰兒の守り神である「Mother」の像の前で、男兒の場合には祖先の牌の前で、嬰兒の髪を剃るようにすると報告している。

### 3.6 剃られる対象

本稿の事例では、剃られる嬰兒の毛を「胎毛」(台湾語; the1-mng5、北京語; tai1 mao2、)と呼ばれていた。これは、嬰兒が母親の胎内にいる時に生えた毛(産毛)のことであるが、本事例の場合には、嬰兒の「胎毛」のうち頭髪と眉毛の両方が剃られた。

「祖母」によれば、現代の台湾では必ずしも皆が頭髪と眉毛の両方を剃るわけではなく、頭髪だけを剃り、眉毛には縁の方に少しだけバリカンを当てて整えるだけの人も多いとのことだった。また嬰兒の襟足部分を少しだけ刈り揃えた知人の例も挙げられたが、これは「剃胎毛」儀礼自体の形式化と考えられるだろう。

本稿が参照した先行研究では、当該儀礼で剃られる対象について、母親の胎内にいたときに生えた毛のうち頭髪のみを記述している。これら先行研究が報告する実際の儀礼においても頭髪のみが剃られたのか、頭髪と眉毛の両方が剃られるが、頭髪のみに報告が集中しているのかは不明である。

### 3.7 胎毛を剃る人

本稿の事例では、剃り手は嬰兒の母の従姉で、美容師をしている女性が剃り手となった。剃り手については親戚でない人に頼んでも構わないが、剃り手には「紅包」(祝儀)をあげるので、それならば親戚の方がよいとのことだった。剃り手について特別な呼称はなく、普通名詞的に「理髪師」と呼ぶかもしれないとのことである(「祖母」より)。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区では、胎毛を剃る者は「近隣の夫婦ともに健在で、しかも孫のある老婆に頼んで剃って」もらっていたが、「台湾でも、地方によっては外祖母[母方の祖母]が胎髪を剃ることも」あった(池田 1968: 836、838)。

19世紀の大陸中国の福州についてドゥーリトゥル(Doolittle 1876: 122)は、理髪師が家族のうちの誰かが、嬰兒の髪を剃る者となると記している。

中国大陸の例では、1942年発行の『支那民俗誌』(永尾 1942: 446)は、嬰兒の髪を初めて剃ることは重要なことであるので、「理髪師も良いのが雇はれるのであらうし、呉れてやる心附けも増額されることはいふまでも無い」と記している。

### 3.8 儀礼で使われる物

本事例では、洗面器の中に、鶏卵と家鴨の卵を煮た温かい汁が入れられ、その中に鶏卵一個、家鴨の卵一個、丸い形の石一個、小さな鉛玉一個、十元硬貨一組が入れられた。

片岡（1921: 7-8）は、「先づ洗面器に水を入れ石一箇、錢十二文、葱少量、鶏卵一箇を入れ、葱を碎き其汁を髪に注ぎ、頭髮に卵の黄仁<sup>キミ</sup>を塗り温めて之を剃る、蓋し石は頭部の速かに強堅とならん為め、葱汁は毛髪濃黒とならしむる為め、卵は胎垢<sup>タイコウ</sup>を去らん為めなりと云ふ」と記している。

鈴木（1995 [1934]: 112）の報告は、片岡（1921: 7-8）と大きく重複しているが、細部で異なる。鈴木は、洗面器に入れる液体を「鶏卵と鴨卵とを煮た汁」と記し、之に加えられる「石一個、錢十二文、葱少量、鶏卵一個」について、「石は頭<sup>タ・ウカ・クチエン</sup>殻有とて早く健康になる様に、錢は成長の後福貴となる為め、葱汁は毛髪濃黒となる為め、卵は垢を去る為めで」という理由付けを報告している。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区では、「洗面器の中に荊芥草 keng-kai-chhau を入れ、それに湯をそそぎ、中に小石一つと一文錢一二枚とを入れ」ていた<sup>9</sup>。しかし、これについては当時も台湾各地で違いが見られ、荊芥草の代わりに湯の中に葱汁を注いだり、蜜柑の葉と鶏卵とを入れて煮沸した湯で頭を剃ることもあるとも記されている。小石については、「嬰兒の頭が石のように固くなり、また錢は将来金持ちになるよのという意味で入れ」られたという（池田 1968: 836-837）。

本事例を含めたこれらの研究は、「剃胎毛」で用いられる様々な物それぞれが、剃り手が唱える詞の内容と呼応して、嬰兒の健やかな成長と繁栄をあらわすシンボルとなっていることを示している。一方、用いられる儀礼具とその意味付けは、事例ごとにやや異なる。本事例において、「祖母」と「母親」とは、用いられる「石頭」と唱えられる詞「頭殻硬」とが、嬰兒の頭が聡明になるという意味と、まだ軟らかい嬰兒の頭が成長して硬くなるという意味の両方を表すと述べた。一方で「早く健康になる様に」（鈴木 1995 [1934]: 112）など、意味付けは必ずしも一致していない。

呉（1977: 114）は、「まず水の中に小石三個あるいは十二個、銅錢十二文、葱一本、紅く染めた鶏卵と家鴨の卵十二個を入れる」と記している。それらの意味するところは、儀礼の所作と関係する（後述）。

### 3.9 唱えられる詞と儀礼の所作

上で挙げた本事例の詞は、後で剃り手に聞いて確かめた言葉である。剃り手はその際に、本

当はもっと長い詞があるし、長い詞をとなえることができる人もいるけど、自分が知っているのはこれだけだと述べた。唱えられる詞が長かったり短かったり、また唱えられる詞の細部が異なるのは、口承伝統ではしばしば見られることである。

(1) 鶏の卵は、卵形の顔でよい顔だということにつながる。台湾語で「koe1-nng7 bin7」(鶏蛋面)と唱える。

(2) 家鴨の卵については、「ah1-nng7 sim1」(鴨蛋心)(「鴨卵のように強い身体」)という詞が呼応している。

一方で、「祖母」は剃り手とは別の解釈をもっていた。彼女は「ah1-nng7 sin1」の部分で「ah1-nng7 sim1」だと理解していた。「鴨蛋」の部分では、最後を「sin1」と発音すれば、「身」(身体)となり、「sim1」と発音すれば、「心」となる。「祖母」の理解は、剃り手のものと異なり、嬰兒の「心」に関するもので、「家鴨の卵の黄身のような黄金の心をもつ」というものであった。彼女によれば、家鴨の卵は、黄身の部分が、他の卵より赤っぽいので、黄金の心につながるという。ここには口承で唱えられる詞についての多様な解釈が見られる。

(3) 「円の石頭」(丸い石)については、頭が(石のように)硬いことは、頭がよいことで、それにつながるという。ただし、先述の通り、石のように硬い頭というものの暗示するものについては、先行研究でも少しずつ異なった意味づけがなされている。

(4) 「鉛」は台湾語で「ian5」と発音し、「縁」ian5 と同音である。子供が将来、友だちなどよい縁に恵まれるようにという意味である。また、人の「縁」に恵まれれば、財(お金)にも恵まれることになると理解されてる。

鈴木(1995[1934]:112)は、「鴨卵身、鶏卵面、好親成、来相」<sup>10</sup>(<sup>ア ヌン シヌ</sup>鴨卵身、<sup>コエメンビヌ</sup>鶏卵面、<sup>ホラチ・ヌチア</sup>好親成、<sup>ライシヲチヌ</sup>来相)<sup>10</sup>(身体は鴨卵の如く大きく、顔は鶏卵の如き形の美人になつて、よき縁があつて夫婦になるやうにとの意)等と縁起よい四句を云つて祝福する」と伝えている。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区では、「殻を紅く染めた鶏卵の殻をむいて中身を半分に分けて、それを嬰兒の顔に塗るまねをする。・・・同様に紅く染めた家鴨の卵の殻をむき、中身を半分に分けて、家鴨のようなきれいなからだになるようにという意味で、それを嬰兒のからだにぬるまねを」していた。その時に、「鶏卵面鴨卵身、好親成、来相」<sup>11</sup>koe-nng-bin ah-nng-sin, ho chhin-chia<sup>11</sup>, lai-sio-thin」と唱えられていた(池田 1968: 836)。池田は翻訳を示していないが、この詞は鈴木(1995[1934]:112)の引く詞と同一である。

呉(1977: 114)では、剃毛後に儀礼的な所作がおこなわれると述べている。「剃髪後に、紅い卵を嬰兒の頭の上で軽く三回転がすが、その意味は紅頂、つまり将来官吏になるという吉兆事である。その後黄身を取り出し葱汁と混ぜ、頭の上に小さく塗るが、その意味は頭髮から垢をとるという意味である。また葱は聡と同音のため聡明を意味し、小石、銅銭はそれぞれ壮健、財気を意味する」という。

### 3.10 「胎毛」の剃り方と禁忌

本稿の事例では、現代台湾で一般的なように、嬰兒の「胎毛」を剃るのに、電気バリカンが用いられた。そのせいか、以下の先行研究で見られるような、剃髪に際して嬰兒の頭を温めたりするような行為は見られなかった。また「祖母」によれば、嬰兒の「胎毛」が剃られている間に発してはならない言葉など、特別な禁忌はないとのことであった。実際に剃り手が嬰兒の「胎毛」を剃るあいだの雰囲気は和やかなものであり、世間話が交わされ、携帯電話に応答したりした。また、剃られた嬰兒の「胎毛」についても、全てを注意深く集める必要は必ずしもなく、床に落ちたものが残っていても構わないとのことだった。

片岡（1921: 7-8）は、「葱を碎き其汁を髪に注ぎ、頭髮に卵の黄仁<sup>キミ</sup>を塗り温めて之を剃る」と報告している。直接の記述はないが、剃られるべき頭に保護を施すような行為をしていることから、剃刀で剃られていたらしいことが分かる。

鈴木（1995 [1934]: 112）は、「葱を碎き其の汁を髪に注ぎ、頭髮に卵の黄仁<sup>キミ</sup>を塗り（中には卵を以て塗る真似をするものもある）温めて之を剃る」と報告している。卵の黄身を頭に塗らず、塗る真似をするだけの場合もあることが、記述に加えられている。

1940年代半ばの台北市万華地区では、「胎髪を剃刀で剃る。このとき、鶏と家鴨の卵を胎髪に塗って剃ることもある」という状況であった。万華では一般に胎髪の一部を剃り残しておくことは忌まれたが、「家によっては前頭額門（Fonticulus frontalis）の上の胎髪を剃り残す」こともあった。「胎髪を剃るとき、これをとりかこんでながめている子供たちは、『痛そうだ』と言ってはいけぬ。この禁忌を破ると、嬰兒はこれから先、頭を剃ることをいやがるようになる」という禁忌があった（池田 1968: 836-837）。

中国大陆の例では、1942年発行の『支那民俗誌』（永尾 1942: 447-449）には、頭髮の一部を残してそのさまざまな風習が紹介されている。

### 3.11 儀礼に伴う卜占

本稿の事例では、「剃胎毛」に関連して、嬰兒の将来などを占う行為は見られなかった。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区の例では、胎毛をそり終わった後で、使用した洗面器の水をその場で流すが、「そのとき地面にあられる一文銭の表裏によって、嬰兒の性格を占う。表が多く出ると、嬰兒は朗らかな性格、裏が多いと短期であるという」報告がある（池田 1968: 837）。

中国大陆については、1942年発行の『支那民俗誌』（永尾 1942: 450）に、胎髪の状態によって、胎児の将来を占い、髪剃頭の時期をそれに応じて変えるという風習が報告されている。

また、剃頭日の嬰兒の動作によってその将来を占う例についても記されている（永尾 1942: 454）。

### 3.12 剃られた「胎毛」の処置

本事例では、嬰兒の「胎毛」は、家の中の扉の上方に見られる四角い枠で囲まれた部分に置かれた。その部分は、台湾語で「開天」kai1-thian1 と呼ばれ、北京語では「天窗」tian1 chuang1 と言う。玄関から家の中に入ったあとで最初にぶつかる扉（「過間門」）の上方の「開天」が、嬰兒の胎毛を置く場所であった（図 13、14）。「祖母」によれば、そこに「胎毛」を置けば、嬰兒が聡明になるとのことである。しかし、皆がそうしているわけではない。実際に「祖母」は、その息子の娘（8 歳）と息子（6 歳）の時にも「剃胎毛」をおこなったが、最初の女孫の時には「胎毛」は「紅包袋」にいれてどこかにしまったという。次の男孫の時に、人にそうすべきだと言われて初めて、「胎毛」を「紅包袋」に入れて、「開天」に置いた。剃られた嬰兒の「胎毛」の処置については、人によって知識の多少もあるし、地方によっても人によっても異なるとのことであった。

第二次世界大戦直後の台北市万華地区の例では、「剃り落とした胎髪は、直接手で受けとらず、鏡の上にのせる。それを鶏と家鴨の卵黄にまぜてまるくまるめ、母親の白粉箱のなかに収める。白粉箱に入れられた胎髪は、その後母親が白粉を使うごとにいつか消滅してしまう。また胎髪が、「鳥の羽根のように」かわった生えかたをしていると、その胎髪は紅紙に包んで家の軒端の瓦のあいだに挿入しておく」という報告がある（池田 1968: 836）。

呉（1977: 114）は、「剃り終ると頭髮と石頭〔小石のことであろう 本稿筆者〕を紅い紙に包み、屋根に置く」と報告している<sup>12</sup>。

中国大陆の例を報告した、『支那民俗誌』（永尾 1942: 451-454）は、「胎髪を大切に保管する習慣が何処にも存する」と記し、いくつかの地方の例を報告しているが、その中には胎髪を高いところに永く保存しようとするモチーフも見られる。そして次項にも見るように、「高さ」は、嬰兒が将来難しい公務員試験に合格したり、高級役人になるという官職獲得のモチーフとつながっているように見える。

### 3.13 童謡を歌う

本稿の事例では見られなかったが、片岡（1921: 8）や鈴木（1995 [1934]: 112-113）によれば、嬰兒の「胎毛」を剃り終えた後に、その嬰兒を抱いて外に出て、竹で地面を打ちながら、嬰兒の将来を祝う童謡を歌う習慣があった。童謡は、嬰兒が男児の場合には詳しく歌い、女児

の場合にはただ「鳶よ鳶よ」と呼びかけるだけだった。男児の場合に歌われる童謡は、鳶が高く飛べば官吏や「状元」( 科学試験の第一合格者 ) となるなど、高さと官職とのつながりを示す内容となっている。呉 ( 1977: 114 ) も同様の風習を伝えているが、男女の別については述べていない。

### 3.14 卵を配る

「母親」によると、「剃胎毛」の日には、家鴨や鶏の卵を親戚たち配り、喜びを分かち合う ( 図 12 )。配られる卵は本来は紅く染められていたが、最近では染料の化学物質を嫌う人も多く、代わりに卵を紅い包で包むことが多いという。本稿の事例では、卵は特に染められてもおらず、紅い包で包まれてもいなかった。周知の通り、漢族にとって紅は吉兆色である。

卵を配ることには、別の意味もあるという。将来、嬰兒がこれらの親戚に頭を叩かれないように、卵を配るというものである。台湾では次のような言葉がある。「吃人的、嘴軟。拿人的、手短<sup>13</sup>」( 誰から食べ物をもらって食べたら、その人についてよいことを言う。誰から何かをもらったら、その人に対して手が短い [ その人を叩いたりしない ] )。漢族の考え方では、食べ物をもらった相手を叩いたりしてはいけないとされるのである。しかし現在では、嬰兒の生後 30 日目の「満月」の祝いの際に、一緒に配ってしまうことが多いという ( 「母親」より )。

池田 ( 1968: 837 ) によると、「儀礼を終えると、紅く染めた鶏と家鴨の卵を、嬰兒の髪剃りに見に来てきた子供たちに分け与える。これは将来、この子と仲よく遊んでくれるようにという意味で分けられる。これを相分食 sio-pun-chiah と称している。一種の共同飲食である。相分食という語は、普通子供同志が互に物を気前よく分け合う意味にも使われている。このようにして、生児は大人の社会ばかりではなく、同じ年頃の子供たちの仲間入りもするのである」。

呉 ( 1977: 114 ) もまた、童謡を歌った後で、そばで見ていた子供たちにそれぞれ一個ずつ「紅蛋」をあげると報告しているが、その意味については記述していない。

このように、卵を贈るまたは分け合うことで、社会関係を確認・形成しようとするモチーフが、報告の多くからうかがえる。

### 3.15 「胎毛」を剃る理由

「祖母」によれば、嬰兒の胎毛を剃り、剃られた胎毛を、家の中の扉の上方 ( 「開天」と呼ばれる ) に置けば、嬰兒は聡明な子になり、「会念書」( 勉強ができる ) 子になるという。「祖母」は、現在小学校二年生の女孫 ( 8 歳 ) の時には、剃胎毛をおこなったが、その胎毛を戸の上方に置かなかった。一方、その弟である男孫 ( 甥、8 歳 ) の時には、他人に言われて、「胎毛」を

「開天」に置いた。女孫がその弟ほど勉強が得意でないのは、このためだと「祖母」は信じている。一方、「母親」は、「祖母」の見方を迷信的だと思っている。

嬰兒の「母舅」(嬰兒の母の兄)による理由付けは次のようなものである。「嬰兒の『胎毛』は、生れてくる前に生えたものなので、それを剃ってしまい、新しくこの世界の毛が生えてくるのを待つ。胎毛を剃るまでは、嬰兒はまだもう一つの世界にいる。胎毛を剃ってからは、嬰兒はこの世界にいる。』換言すれば、嬰兒は胎毛を剃り終わるまではこの世界の本当の存在といえず、「剃胎毛」を通過することによって、この世界に参入するということである。

「母親」の理由付けは合理的なものである。「私が思うに、なんで胎毛を剃るかというと、(細い)胎毛を剃れば、新しいもっと黒くてしっかりした髪が生えてくるし、それから、昔は虱とかが多かったから、胎毛を剃って、除去したんじゃないかしら、私の考えだけだ。」

「胎毛」が否定的な意味づけを受けることもある。1980年代初めの台南の農村では、「新生児の胎髪<胎毛<sup>テモ</sup>the1-mng5>は非常に穢れたものとされており、これを剃らないうちあるいは生え変わらないうちは、廟に入ることはできない」とされていた(植野 2000: 251)<sup>14</sup>。産毛が生え生える毛に取って代わられて初めて、共同体の成員としてより正式な位置を占めるのだといえる。

### 3.16 「剃胎毛」後の習俗

「母親」によれば、「剃胎毛」後には嬰兒の頭に新しく毛が生えてくるが、頭の一部に毛が生えなかったり、斑状に生えたりすることがある。このような状態は、嬰兒が「姑姑」(北京語; gu1 gu1、台湾語; 「阿姑」a-ko1、父の姉妹)に、靴を要求していると理解される。父の姉妹が靴を一組嬰兒に買ってあげると、頭全体にきれいに髪が生えるという。この習慣を「姑路」(北京語; gu1 lu4、台湾語 ko1-lu7)と呼ぶ。そして、嬰兒の後頭部の髪の毛が一本の道のようになって欠けている様子を指して「姑路」と言う。

## 4. 嬰兒の守護神「床母」

上述した、新生児の成長の節目におこなわれる諸儀礼は、「床母」(台湾語; chnng5-bu2、北京語; chuang2 mu3)の存在と関係している。「祖母」と「母親」によれば、嬰兒には守ってくれる女神がいるという。「床母」という名の通り、その守護神は嬰兒の寝台あたりにいると捉えられている。

嬰兒に関わる様々な事象には、しばしば「床母」を持ち出して説明される。例えば、蒙古斑は、床母が嬰兒ひとりひとりを見分けるためにつけたしるしだと言う。また嬰兒が笑っている

のは、大人には見えない「床母」と遊んでいるとされ、嬰兒が泣いているのは「床母」が嬰兒をからかったり罰したりしているのだと言われる。

嬰兒を、かわいいとか、大人しくていい子だとか、褒めすぎてはいけない。何故なら「床母」がそれを聞いて、嬰兒を大人しくなくさせるかも知れないからである。嬰兒の前で、嬰兒が重いとは言ってはいけない。「床母」が悪戯心をおこして、嬰兒があまり食べないようにさせて痩せさせるかもしれないからである。「床母」は本来、嬰兒の守護者であるが、気まぐれな性質ももち合わせているらしい。

嬰兒が良い子にしていなかったり、病気だと、「床母」を拜むことがある（「拜床母」）。嬰兒の寝台の付近に、台を置き、ご飯一碗、料理した卵一個（鶏卵でも家鴨の卵でもよい）、紙で作った「床母」の衣服を置き、線香を点す。「床母」の衣服はそこで燃やしてしまい、ご飯と卵も母親が食べてしまう。また、一年の中でも七月七日（七夕）は、「拜床母」の日となっている。

「床母」がどれだけの間、嬰兒と一緒にいるかは様々である。中には嬰兒が小学校に上がるようになっても、「床母」が一緒にいる場合もある。「母親」によれば、「床母」は、嬰兒が成長して話ができるようになるまで一緒にいるという。

このように生後間もない嬰兒は、まだ人間世界に十全に参加していないと捉えられている。「母親」によれば、嬰兒が中空を眺め入っている時には、赤ん坊はもうひとつの世界を見ていられると言われる。嬰兒が話ができるようになるまで、嬰兒は「床母」の庇護下にあり、異界と人間世界の間にいると捉えられているのである。嬰兒が話せるようになり、自分の意思を表現できるようになると、本当にこの世界に入ってきたと見做される。

第二次世界大戦直後に台湾を調査した池田によれば、「台湾人は十六歳で、子供の守護神である床母 Chhng-bu の庇護から脱し、大人の仲間に入る。その間、生まれて大きくなるまでに通過しなければならない関門のうち、特に重要なものは生後三日目、一ヶ月、四か月、満一年の四つの儀礼である」と述べている（池田 1968: 819）。子供が様々な生育儀礼を通過してゆくことによって、だんだんと守護神「床母」の庇護から脱して、より十全な社会成員となってゆくという見方を取っているのである。

先述の「母親」による「嬰兒が話せるようになるまで」という言葉に示されるように、現代台湾では「床母」の庇護は、過去においてほど長く必要とされていない。社会の変化とともに、嬰兒の直面する危険や生命の危うさは軽減され、嬰兒の人間世界への参入も、過去においてそうあった程に問題を伴わなくなった。このことが、「床母」観の変化に関係していると言えるだろう。



## 5. 考察

呪術的な思考や実践および儀礼は、人間が危険や不確実性など人間の統御を超えるものに直面した時にしばしば顕現する（マリノフスキー 1977: 175-177、1997: 30-36）。人間のライフサイクルにおいて、生後間もない嬰兒の時期は、生命がいまだ安定せず、危険や不確実性に対して特に脆弱な時期である。儀礼は、このような統御不可能性に直面した人間が、世界が実際に統御不可能であっても、儀礼を遂行することによって、ある種の秩序を打ち立てようとする試みかもしれない。そして儀礼によって打ち立てられるように見える秩序は、人間の統御を超える偶発性にも相似する秩序を与え、人間が統御できるかもしれないという感情を生み出すのだと言えよう。

さまざまな社会において、脆弱な状態にある嬰兒は、いまだ人間としての十全性を備えておらず、半ば異界にいて、人間世界へ完全な参入をまだ果たしていない存在として捉えられる（日本の例では〔八木 2001〕を参照）。台湾においてこのような嬰兒は、大人の見ることのできない存在を目にすることができ、「床母」という守護神の庇護下にあるとされる。嬰兒の生後に繰り返される定期儀礼は、いまだ異界にある嬰兒を、徐々に人間世界へ参入させる機能を果たす通過儀礼（ファン・ヘネップ 1995）として捉えることができる。「剃胎毛」において、嬰兒は祝福を受け、母親の胎内にいたときに生えた「胎毛」を剃られる。その後、新しい毛が生えてくるに従って、新しく人間世界へと徐々に参入してゆく。異界の産物である「胎毛」は、「紅布袋」に入れられ、高所に置かれるなど、特別な処置を受けるが、嬰兒の成長後の幸福に関与するものと見做される。生後3日後、24日後、一ヵ月後、四ヵ月後、一年後と繰り返される儀礼は、嬰兒の成長に伴う通過点である。台湾において、嬰兒はまだ人間世界に十全に参入していない存在とみなされ、生後おこなわれるいくつかの儀礼とともに、だんだんと人間世界の成員となってゆく。

嬰兒の生後間もない間に定期的におこなわれるこれらの儀礼は、嬰兒の安寧と幸福とを祝福するものであるばかりでなく、嬰兒を巡る人々の間の社会的な紐帯を確認し、強化するものである。嬰兒の儀礼が、その母親の生家と婚家との関係を、贈り物によって確認し作りあげるものであることは植野の研究（2000）に詳しい。本稿の記述では、嬰兒の母親の生家と婚家を行き来する贈り物の流れについては詳しく記述することはできなかった。しかし、本稿が部分的に報告した儀礼に付随する食物（卵など）の分配、祝宴の開催、「紅包」のやりとり等には、親戚、友人、隣居間の社会関係を確認・形成する社会的な機能があることが見て取れるのである。

また本稿の諸事例が明らかにするのは、台湾儀礼における儀礼的なシンボリズムのもついくつかの特徴である。儀礼の期日や儀礼具の数など、数字に関しては、その発音の類似語から、吉凶が判断される。儀礼の際に唱えられる詞からも明らかなように、「剃胎毛」で用いられる鶏

卵、家鴨の卵、「石頭」、鉛玉などの儀礼具によって、それらの形状や性質と類似するような嬰兒の安寧と幸福が祈願される。音や形状・性質の類似を操作することによって、儀礼はある種の秩序を作りあげようとし、現実を望むべきその秩序に一致させようと試みる。試みられるそれらの秩序は虚構かも知れないが、儀礼に参加し体験する人々の感情や心は、秩序ある一定の形に鋳型づけられる。

現代の台湾人自身が述べるように、かつてあった儀礼や慣習の知識は失われ、儀礼の一部は失われ、一部は簡略されていっているように見える。「剃胎毛」で用いられていた剃刀が電気バリカンに代替されたように、技術や物質面などを中心とした人間生活の変化が、儀礼の変化の一因であろう。しかし、儀礼はそれ自体で存在するのではなく、それに関与する人々の間に結ばれた社会関係の基礎の上にある（ニティ 2007）。だとすれば、一見簡略化されつつあるように見える儀礼も、それらが遂行され続ける限り、新しい人間関係に沿う形に儀礼自体が適応しつつある過程にあると言えるよう。

#### 謝辞

本研究で取りあげた儀礼について報告の機会を作ってくれた筆者の長男、筆者の度重なる問いにうんざりしながらも答えてくれた妻と岳母に感謝する。本稿は、平成 20 年度文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究「周縁性の経験 少数民族ラフの宗教変容と語り」、研究代表者：西本陽一）および平成 20 年度金沢大学学長戦略経費（海外共同研究「不確実性とつきあう流儀 アジア宗教民俗の比較研究」、研究代表者：西本陽一）の成果の一部である。

#### 付記

本稿における台湾語表記は、白話字（教会ローマ字）によるが、声調記号は数字に置き換えた。台湾語は地方によって発音が異なり、本稿の事例は台湾南部のものである。しかし筆者には南部台湾語の表記が不可能であったため、台湾語表記に際しては、北部台湾語の白話字表記を用いている村上の台湾語辞典（2007）を参照し、北部台湾語に置き換えた。

#### 注

- 1 台湾において、年中行事や諸儀礼は農曆を基準とすることが多いため、以下での記述は農曆による。例えば、例えば、「一ヶ月」と言えば、30 日で計算されたものである。一方、インフォーマントたちの年齢は、数え年でなく満年齢で記載してある。
- 2 この産褥期には、母子は決まった部屋の中に留まり、産婦は水浴びをしてはならないなど様々な禁忌が課せられる。
- 3 嬰兒の生後最初の「剃頭」と「満月酒」の祝いは必ずしも同じ日におこなわれるわけではないが、この言明からもふたつの儀礼の結びつきがうかがえる。
- 4 妹でなく弟ができると言われるのは、伝統的に男児が望まれてきたからである。
- 5 実際に、本稿の事例の嬰兒の従兄は、満一歳のときに祝いをしなかったため、その父の弟の婚礼の時（そ

の従兄が満5歳の時)に併せて祝いをした。

6 村上(2007:180)は、kohlに漢字「復」を当てている。

7 人によっては、40日目におこなう人もいる。2008年に台北市で自然産により出生した女兒(母親の友人の子)は、40日目の「満月酒」の日に、「剃胎毛」をおこなった。この女子は4000グラム以上の特別大きい子として生まれたため、母親が特別長く「坐月子」(産後の養生)したほうがよいとの考えがあったこと、および母方の祖母が客家人だったことが、40日目に「満月酒」と「剃胎毛」をおこなった理由と考えられる。

8 福州は福建の一都市であり、台湾の人口の多数を占める福建系住民の慣習に近い慣習をもっている。

9 さらに、この「荊芥草はふだん陽気な子供を選んで薬草店に買いにやる使いにやられた子供は、なるべく笑顔をつかって帰ってくるようにする。こうすると嬰兒は将来明朗な性質になると」されていた(池田1986:836)。

10 人偏に、「均」のつくりをあわせた漢字。

11 人偏に、「均」のつくりをあわせた漢字。

12 この記述について「祖母」は、客家人の慣習だと述べた。

13 実際には台湾語で発音されるが、北京語に直すとこのようになる。

14 さらに植野(2000:251)は、「<剃頭>は行わない者もある。しかし、剃った場合においても、新生児は廟に入ることができるが、正門からは入れず、側門から入る。しかし、多くの者は、新生児は四か月以前は廟に連れて行かないと述べている」と書いている。

## 文献

池田敏雄 1968 「台湾人の誕生儀礼」金関丈夫博士古稀記念委員会編『日本民族と南方文化』東京:平凡社、pp.819-843.

植野弘子 2000 『台湾漢民族の姻戚』東京:風響社.

吳瀛濤 1977 『臺灣民俗』台北:衆文圖書公司.(中文).

片岡巖 1921 『臺灣風俗誌』台北:台湾日日新報社.

鈴木清一郎 1995 『台湾旧慣冠婚葬祭と年中行事』台北:南天書局(1934年台湾日日新報社発行の復刻版).

永尾龍造 1942 『支那民俗誌 第六巻』東京:支那民俗誌刊行会.

ニティ・イーオシーウォン 2007 『東北タイのロケット祭り』西本陽一、アナンタナコム パニダ共訳. 金沢:金沢大学文学部.

ファン・ヘネップ、アルノルト 1995 『通過儀礼』綾部恒雄・綾部裕子訳. 東京:弘文堂.

マリノフスキー、プロニスラフ 1977 「西太平洋の遠洋航海者」寺田和夫・増田義郎(抄訳)『世界の名著 59 マリノフスキー・レヴィ=ストロース』東京:中央公論社.

マリノフスキー、B 1997 『呪術・科学・宗教・神話』宮武公夫・高橋巖根訳. 京都:人文書院.

村上嘉英編著 2007 『東方台湾語辞典』東京:東方書店.

八木透 2001 「七つ前は神の内 七五三の源流」八木透編『日本の通過儀礼』思文閣出版、pp.24-31.

Doolittle, Justus 2006 *Social Life of the Chinese VI: With Some Account of Their Religious, Governmental, Educational, and Business Customs and Opinions with Special but not Exclusive Reference to Fuhchau*. Whitefish: Kessinger Publishings, Reprint of 1876 version.

# ***Shaving Lanugo in Contemporary Taiwan***

## **Rites of Passage for a Newborn Baby**

Yoichi NISHIMOTO

Department of Human Sciences, Kanazawa University, Kakuma, Kanazawa, 920-1192 Japan

E-mail: yoichi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

### **Abstract**

Magical thinking and practices tend to manifest themselves, when people are faced with risks and uncertainty. In human lifecycle, there are many rituals for newborn children who do not have a stable life yet and are vulnerable to illness and dangers. Based on fieldwork, this paper reports one of the Taiwanese rituals for infants, called “*Ti Tai Mao*” or “*Ti Tau*”, meaning “shaving lanugo”, which is to be done on the 24<sup>th</sup> day after the baby’s birth. Analysis of this ritual reveals several attributes of Taiwanese ritual symbolism and the fact that newborn children are not yet considered as fully human like adults, but that they are entering the human world through undergoing several rites of passage.

**Keyword** anthropology, magic, rite of passage, Taiwan, infant



図 1 さまざまな儀礼具が入った洗面器の水。



図 2 鶏卵で嬰兒の頬を軽く撫ぜる。



図 3 家鴨の卵で嬰兒の胸を軽く擦る。



図 4 「石頭」と鉛玉を取りながら、詞を唱える。



図 5 「石頭」で嬰兒の頭を撫ぜる。



図 6 鉛玉で嬰兒の額を拭くような所作。



図 7 硬貨で嬰兒の額を軽く触る。



図 8 バリカンで嬰兒の「胎毛」を剃る。



図9 「胎毛」を集めて「紅布袋」に入れる。



図10 「紅包」を渡す剃り手。卵を食べる従兄。



図11 「剃頭」後の嬰兒。「紅包」が覗く。



図12 「剃頭」の日に訪問客に配られた卵。



図13 戸の上に置かれた「胎毛」入りの封筒。



図14 「胎毛」の置かれた戸の上の「開天」。